

講習会の効果的な受け方を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 夏休みに入りました。皆さん元気にお過ごしのことと思います。この「開倫塾の時間」は、社会人を含め、効果の上がる学習の仕方、学習の方法を中心にお話をさせていただいている番組です。今は夏休みですので、この秋以降自分の行きたい学校の入試合格を果たそうと学び続けている多くの受験生の皆様は、学習塾や予備校、学校で実施する夏期講習会に行かれると思います。そこで今日は、夏期講習会を最大に活用して希望校に合格できるだけの学力をどのようにつけたらよいかというお話をさせていただきます。
3. 一番大事なことは、夏期講習会に欠席することなく毎日通い詰めることです。そして、通うと決めたら、講習会には遅刻することなく必ず時間通りに到着すること、できるだけ授業時間の少し前に到着して、前回までの復習をすること、その日の予習をすることが大事です。また、早退することなく講習会が終わるまでそこに居ること、できれば授業後もその教室に残り、その日の授業内容をもう一度やり直すことが大事です。講習会の期間中は体調を整え、くれぐれも欠席や遅刻、早退をすることなく参加してくださいね。せっかく自分で夏期講習会に出ると決めたのですから、また、保護者の方にお金、講習会費を出していただいて講習会に参加しているわけですから、欠席や遅刻、早退のないようによろしくお願いします。
4. 大事なのは、教室のどの席に座るかです。教室の後ろのほうの席に座りますと、自分の前に何人かの人が座りますから、前の人の中からは見えても、先生がいろいろな説明をなさるときの顔が見えない、黒板の字が読めないということがあります。先生の口元が見えると、先生のお話がよくわかります。また、このような方は少ないと思いますが、先生が少し小さな声でお話をする場合はなかなか声が聞こえないこともあります。例えば、首都圏の大手進学予備校などでは100名・200名の教室での講習会がたくさんあります。後ろのほうに座りますと、前にたくさんの方がいますので、黒板や先生の顔が霞(かす)んで見えるということがあります。20～30名の小さな教室でも、前のほうに人が座っていると、先生の口元や黒板の字がよく見えないことがあります。ですから、くれぐれも前のほうの席に座ってください。一番よいのは、一番前に座ることです。なぜよいかと言いますと、先生が自分のためだけに話しているように思えるからです。一番前の席ですと、先生が自分のためだけに話してくれていると思えるほど先生の口元が見え、先生が黒板に書いている字がは

はっきりと見えて、先生のお話もしっかりと聞くことができます。ですから、私は、講習会ではできるだけ前のほうに、できれば一番前に座ることをお勧めします。そのためには、ほかの皆さんが講習会の会場に来る前に到着しなければなりません。原則 30 分前に到着することを心掛けてください。30 分前到着を御自分の一生涯の学習習慣にすると、とてもよい人生が送れますよ。

5. 私は自分に欠けている勉強がたくさんあるために、時間をつくって様々な講習会やセミナーに行きます。時間があるときは、なるべく 30 分前に会場に到着するように心掛けています。そうすると誰も来ていないことが多いので、一番よい席、つまり一番前の席に座ることができます。皆さんも自分にとって一番よい席、一番前の席に座るために、早め早めに行動していただくようお願いいたしますね。

6. 予習をすることも大事です。多くの講習会には、それ用のテキスト、教科書があります。また、プリントや問題集が用意されていることもあります。その授業時間になって先生が突然配ることもあります。これは非常に珍しい話です。だいたい数日前か前日にはすべてのものが配られることが多いと思います。前日までに配付されなくても、授業前には準備されていて会場で配付されることも多いと思われます。授業の 30 分以上前に会場に到着して、それらを授業が始まる前までにひたすら予習するようにお願いします。

7. では、予習はどのようにするか。私の考えをお話します。予習では、一つ一つの文字を読んで何が書いてあるかをよく確かめること、読めない文字があったら辞書を引いて確かめること、よくわからない内容があったら学校の教科書・学年別の参考書・科目ごとのいろいろな用語集などでよく調べて確かめることが大事です。つまり、これからの講習会で用いられるテキストやプリントに何が書いてあるかを理解したうえで、もっと言えば、何がわからないかをはっきりさせたいうえで、講習会に出ることが大事だと思います。講習会の教材の予習は何のためにするかと言いますと、何がわからないかをはっきりさせて先生のお話を聞くため、授業に出るためだと私は思います。今日の講習会で学習する内容の中でわからないことを把握するために予習を行い、そのわからないことを知るために講習会に出る。問題意識を強く持つことが大事です。先生のお話をお聞きするのは、自分のよくわからないこと・自分にとっての問題を解決するため、つまり問題解決のためだと考えます。これが予習の意味、予習の本質です。このような強い問題意識を持って毎回の授業に臨めば、非常に効果の上がる講習会になると思います。是非お試しください。

8. 予習や復習をするときには辞書を必ず用意して、わからないことばや理解していない用語、考え方を必ず調べてください。辞書で調べたことばは、その意味をノートに書いておくことをお勧めします。そして、何日か経ってから、そのことばの意味を繰り返し繰り返し読んで身に着ける・覚えること、書き取り練習までしてそのことばと意味を楷書で正確に書けるまでにするをお勧めします。辞書で 1 日に 10 個わからないことばを調べると、夏休みが 40 日あれば 400 個の新しいことばを知ることができます。このように 1 日に 10 個の意味調べを繰り返していけば、つまり 1 日に 10 個ずつ調べていくと 1 年間で 3650 語の新しいことばを知ることができます。3 年間では 10000 語以上の新しいことばを知ることができます。学力は、語彙数(ごいすう)、知っていることばの数で

決まるとも考えられますので、辞書を使って知らないことばを毎日毎日 10 個以上調べること、調べたことばはそのことばと意味をノートにメモしておくこと、毎日 10 語の書き取り練習を済ませること、そのノートをいつも 1 ページ目から声を出して読む練習をすること、一度調べたことばはすべて正確にコツコツと身に着けることをお勧めします。

9. 加えて、夏期講習会の授業の間は絶対に居眠りをしない、おしゃべりをしない、メールをしないことも大事です。講習会の授業も学校の授業と同じ態度で、先生の目を見て、また、口元を見て真面目(まじめ)にお話を聞くことをお勧めします。

10. 講習会の授業が終わったあとは疲れていると思いますが、家に帰ったら必ずその日のおさらい、つまり復習をすることも大事です。その日に学習した内容の中でわからなかったことは何か・新しく知ったことでもう少し調べたほうがよいことは何かを講習会のテキストと授業中のノートをもう一度見て確認し、繰り返し復習して身に着けることが大事だと思います。

11. ところで、「学習」の「学」の字は「学ぶ」という意味です。「学ぶ」とはどんなことかと言うと、「よく理解すること」です。一方、「学習」の「習」の字は「習う」ことです。うんなるほど「理解」する「学ぶ」も大切ですが、「習う」は「学ぶ」に負けず劣らず大切です。講習会で「学」んで「これはこういうことなのか」とよくわかった、「理解」したことについては、できる限り繰り返し「音読練習」や「書き取り練習」、「計算・問題練習」などの「定着のための 3 大練習」をします。このように「習う」、つまり復習をして全部身に着けてしまう。これが学力を身に着けるコツです。また、問題を練習して間違えたら、その間違えた問題を 2 ～ 3 回やり直すと同じ問題を間違えなくなります。そして、大切なことは「間違いノート」や「まとめノート」にメモしておくこと。これも得点力をつけるためには非常に大切なポイントです。

12. せっかく夏期講習会に出席するのですから、授業を大事にする。テキストと授業中のノートを大事に大事に使って予習も復習もする。このようにして、講習会で習ったことはすべて身に着ける。最初からこのようなことを考えたうえで参加していただければ素晴らしい夏期講習会になると思いますので、是非頑張ってください。

— 2013 年 11 月 25 日加筆・訂正、林明夫—